

再生可能エネルギー関連産業の 振興に向けた共同研究会 事業報告書

2025(令和7)年度



令和7年度の取組





再生可能エネルギー関連産業の振興に向けた共同研究会」 活動内容

活動一覧

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

● 5/1 第1回MTG

● 7/31 第2回MTG

● 9/4 第3回MTG

● 11/18 第4回MTG

● 12/8 第5回MTG

● 1/13 第6回MTG

3/27 第7回MTG ●

● 10/16 GOWSイベント登壇

● 10/15 株式会社日本総合研究所参画

● 12/7 あきたREハイスクールEXPO見学

● 1/29 共同企業訪問

● 2/9,10
両市の企業交流

● 10/20
秋田市・株式会社日本総合研究所との連携協定締結

適宜担当間MTGでの情報・意見交換



◆ 若年層を対象としたGX人材育成検討

- 両市が進める人材育成に向けた取り組み（教育旅行受け入れ、秋田新エネルギーカレッジ）に関する事例紹介・意見交換
- 民間企業を対象とした社員研修旅行に関する事例紹介・意見交換
- 各地域企業が抱える人材確保に向けた課題・アイディアの共有

議論を進める中で共有された地域企業からの意見

- ✓ GX産業への参画に向けた準備を進めるにも人手不足が喫緊の課題
 - ✓ 地域企業の想いを知った人材を風力発電事業のメインプレイヤーとなる企業に送り込み、地域企業の積極的な活用や地域共生を進めてもらうという取り組みはできないか
- ▼
- ◆ 両市の企業によるノウハウ共有や関係性構築により、課題を解決する取り組みを検討
 - ◆ 両市がこれまで進めてきた学生向け人材育成による教育機関との連携やカリキュラムを活用する方針で検討



風のチカラ体感フェス（GOWS2025同時開催）

◆ 秋田市 × 石狩市 × 日本総研が目指す自治体間連携と今後の取り組み

日 時 令和7年10月16日（木）

場 所 秋田市にぎわい交流館AU

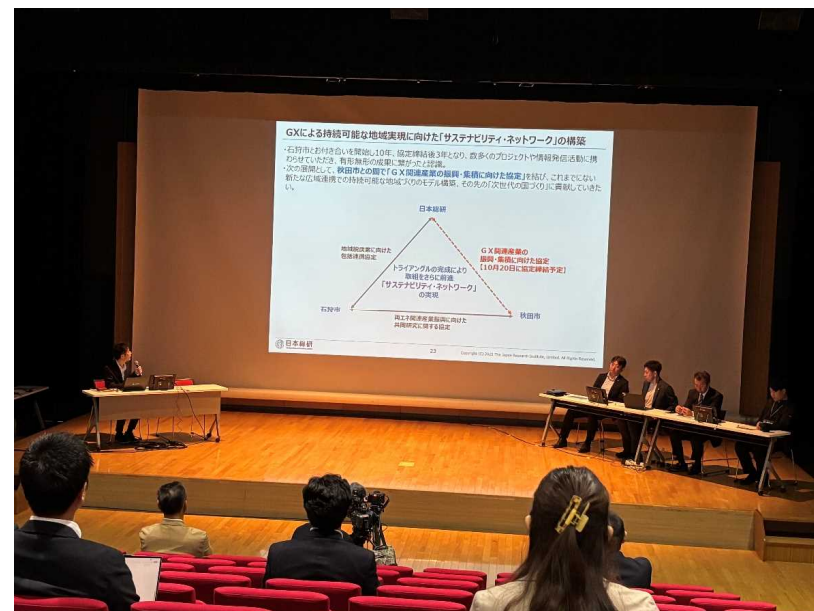
ファシリテーター 株式会社日本総合研究所
登壇者 秋田市新エネルギー産業推進室
石狩市企業連携推進課
株式会社TJK
秋田大学国際資源学部

大島 裕司 氏
藤原 守 氏
池内 直人 氏
小林 茂 氏
石井 瑞基 氏

研究会事業の一環として「秋田市 × 石狩市 × 日本総研が目指す自治体間連携と今後の展望」と題したセッションイベントを開いた。

両市及び研究会事業に参画する日本総研がそれぞれの取り組みを紹介したほか、両市の取り組みに参画する地域企業、学生も加わり、パネルディスカッション実施。

石狩市から参加した小林氏からは、地域企業の洋上風力発電事業参画に向けた課題や展望、秋田市から参加した学生の石井氏からは、GX関連事業を若年層や市民に近づける取り組みについて紹介・提案された。



〔セミナーの様子〕



秋田市・株式会社日本総合研究所との連携協定締結

日 時 令和7年10月20日（月）

株式会社日本総合研究所が保有する、地方創生や地域脱炭素などの取組に関する知見やノウハウを活かしつつ、秋田市が進めるGX関連産業の振興・集積の加速化を目指すため、
「GX関連産業の振興・集積に向けた連携協定」を締結。



【協定締結式の様子】

石狩市×秋田市×日本総研の枠組みでさらなる取組の推進へ

- ✓ 石狩市と日本総研は2022(令和4)年に連携協定を締結
- ✓ 石狩市と秋田市は2024(令和6)年に共同研究会を設立



- ◆ 秋田市と日本総研の連携協定により、3者によるトライアングルが完成

→関連事業のさらなる前進に期待

これまでにない、新たな官民・広域連携で、
GX関連事業の推進とその先の
持続可能な地域づくりを目指す。



◆ あきたREハイスクールEXPO

日 時 令和7年12月7日（日）

場 所 秋田拠点センターALVE
1階きらめき広場

秋田市が主催する高校生向けGX産業周知イベント「あきたREハイスクールEXPO」を石狩市が見学。

令和7年度に議論を進めてきた人材の育成・確保手法について検討を深めるため、参加企業へのヒアリングなどを通してさまざまな意見を得ることができた。

イベントの運営や効果などについても意見交換し、今後の両者の事業に関する参考となった。



〔企業ブースの様子〕



〔講演の様子〕



企業を交えた意見交換

- 両市がターゲットとする洋上風力関連企業やデータセンター関連企業などの立地を促進するため、両市が持つ、企業との関係性を活用しながら誘致活動を進めている。
- 今年度は秋田市が持つ情報を元に、1社に両市の担当者と訪問し意見交換を実施した。

◆ NTT・NTT東日本 様

日 時 令和8年1月29日（木）

場 所 NTT IOWN総合イノベーションセンタ他（東京都内）

- ◆ NTTグループが提唱する、NTT東日本が活用・提供する次世代通信基盤「IOWN」をテーマとして技術的な意見を交換を実施。
- ◆ 「IOWN」の活用により、データ主権や安全性を確保したまま、距離的制約が解消され、これまで首都圏を中心に立地が進んできたデータセンターの地方分散が容易となる可能性がある。
- ◆ 石狩市と秋田市の双方のデータセンター連携によるデータ需要の創出や再エネのデマンドレスポンスなどにより、電力の地産地活の新たなモデルとなる可能性がある。

今後も関係事業者の情報を共有し、両市の連携による新たな事業が実現するよう取り組む



石狩市企業訪問団による秋田市訪問（2月9日～10日）

【2月9日（月）ビジネスセミナー】

第1部 基調講演

「風作戦の取り組みと洋上風力業界」

（株）ウェンティ・ジャパン 代表取締役
佐藤 裕之 氏

「一般海域での洋上風力発電事業における地元参入」

男鹿・潟上・秋田Offshore Green Energy（同）
建設所長 本宮 亘 氏

「GXと持続可能なまちづくり」

株式会社日本総合研究所 大島 裕司 氏

第2部 グループセッション ※飛行機の欠航により中止

- ① 両市企業の協業可能性について
- ② 次世代人材の確保について





石狩市企業訪問団による秋田市訪問（2月9日～10日）

【令和8年2月10日（火）視察】

1 風と海の学校「あきた」

日本郵船株式会社が男鹿海洋高校内で展開する人材育成施設「風と海の学校あきた」を見学。洋上風力の作業員に求められる技能を学んだほか、人材の受け皿となる教育施設について理解を深めた。

2 株式会社ホサカ

秋田市内に立地する株式会社ホサカを見学。同社は、風力発電事業向けにクレーン事業などを手掛ける企業。会社同士の意見・情報交換なども実施し、中小企業による業界参入の事例を学んだ。

3 木質バイオマス発電所

ユナイテッドリニューアブルエナジーが展開する木質バイオマス発電所を見学。風力発電のみならず、多様な再エネ電源について学ぶことで今後のGXの動向について知識を得た。



令和 8 年度 of 取組の方向性





G X 関連産業の誘致に向けたイベントの実施

▶ 日本総研のスタジオにて、3者の取組などに関する情報を発信。

○ 開催時期：2026年秋～冬頃を想定

【本取組のポイント】

洋上風力発電事業運転の開始を契機にクリーンエネルギーを必要とする「G X 関連産業」の誘致を進めたい。



本研究会は再エネ関連産業の振興に主眼を置いた国内初となる座組であり、さらに同分野に強みを持つシンクタンク「日本総研」が加わったことで、研究会のプレゼンスが向上しつつある。



**本研究会の取組に興味をもってもらうための“仕掛け”として
研究会初となるPRイベントを実施**

- 【観点】
- ・ 洋上風力発電のさらなる導入拡大と関連産業の振興
 - ・ データセンターの立地拡大とクリーンエネルギーの広域的な利用拡大
 - ・ 国によるG X産業立地の方針
 - ・ 持続可能なまちづくり
 - ・ 再生可能エネルギー関連産業振興 × 地域課題の解決



洋上風力サプライチェーンの構築（陸上風力メンテナンス編）

【整理】

- 令和8年2月9日に実施した石狩市と秋田市の企業交流会では、両市企業の協業による地域企業の風力発電事業参画に向け、意見交換を実施した。
- 陸上風力発電のメンテナンス事業を手掛ける企業からは、人手不足が課題として挙がっている。両市企業のうち、メンテナンス経験のある企業が参画意欲のある地域企業の人材を活用しながら育成することで、参画が促進されるのではというアイデアが生まれた。

メンテナンス参画企業からの声

- ✓ 陸上風力のメンテナンスについて、**作業員不足を理由に断っている仕事も多い。**
- ✓ 風力発電のメンテナンスでは、ものづくり産業など手先が器用な人材が活躍しやすい傾向にある。**本業の繁忙期を避けて派遣されてくる作業員もいる。**



参画意欲のある企業

- ✓ 建設・製造業の企業が多い。
- ✓ 陸上風力のメンテナンスに先行して携わっている企業と協力したい。
- ✓ 両市においては、都道府県などによる人材育成補助が活用できる。



洋上風力サプライチェーンの構築（陸上風力メンテ編）

今後の取り組み（案）

フェーズ1

事前の情報収集

- ✓ 人材を共有するための法的な要件や前例を調査し、実現可能性を確認する。
- ✓ 両市の企業にヒアリングし、どのような体制・人材であれば協力が可能か洗い出す。

フェーズ2

各社でのメンテナンス人材の確保

- ✓ 既存の支援制度等を確認し、メンテナンス人材の育成に興味を持つ企業に紹介する。
- ✓ 企業側は制度を活用し、人材の育成を開始する。

フェーズ3

メンテナンス人材・地域企業の実績確保

- ✓ マッチング機会の創出などで、メンテナンスに関わる企業と人材を育成した企業をつなげる。
- ✓ 育成した人材を両市及び近郊エリアに立地するメンテナンス受注企業に派遣し、実績を積む。

フェーズ4

両市企業の協業による受注拡大

- ✓ 両市企業などが人材を共有し合い、協業しながら受注を拡大する。

両市の企業間での交流を契機に、お互いの課題を解決しながら、風力発電関連産業のサプライチェーンを構築する新たなモデルへ



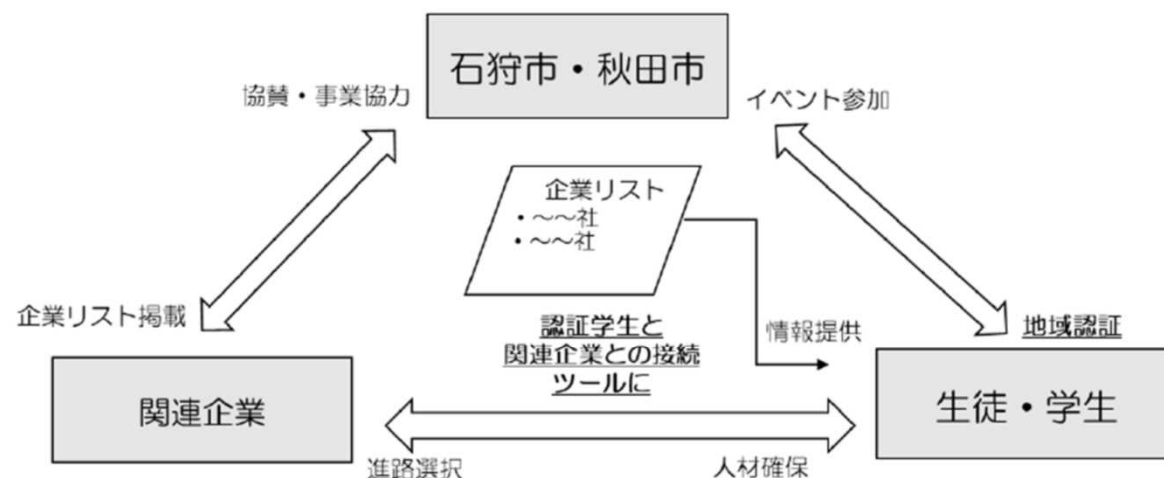
洋上風力サプライチェーンの構築（人材の地域認証編）

ねらい

人材を確保するため、“地域の人材認証制度”を構築する（国内で洋上風力発電が稼働している両市だから出来ること）
研究会での検討内容を、より業界・地域企業のニーズに沿ったものにするための情報収集

地域認証のイメージ

- ✓ 見学・体験・講習など、研究会が用意するカリキュラムを修了した高校生・大学生を地域として認証する。（資格のようなイメージ）
- ✓ 認証された学生は、その肩書を活用して、制度に賛同するGX関連企業、地域企業の就職試験を受ける。



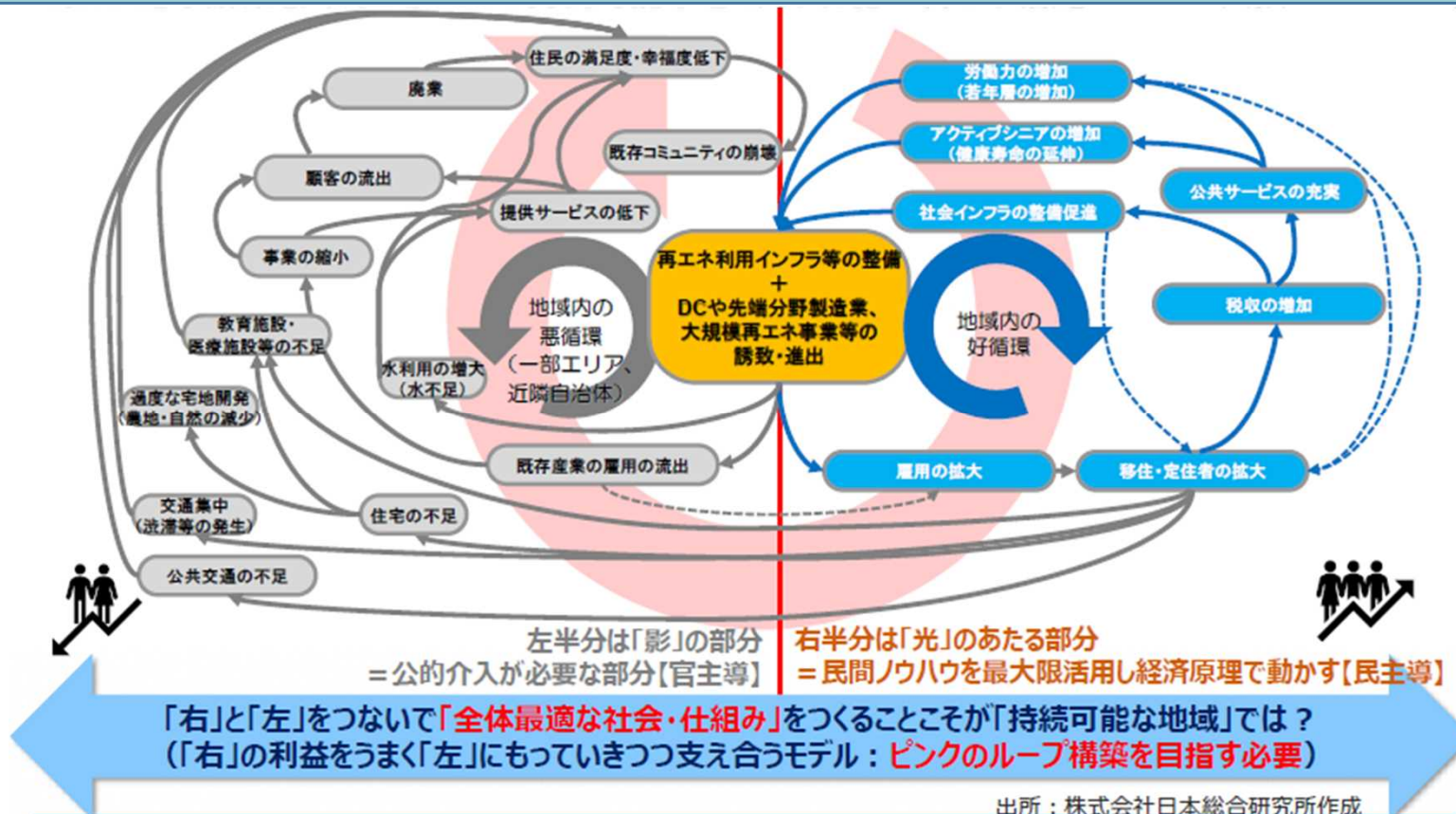
学生側＝GX関連企業や地域企業の就職を志す動機に？

企業側＝地域やGX関連産業を知る人材が採用できる可能性

**研究会による人材の地域認証制度を構築し、
地域企業とGX関連産業の人材確保への寄与を目指す**

日本総研からの提案

- GXによって持続可能な地域を実現していくためには正・負の2つの循環があることを認識し、その「両方を繋ぐ大きな循環を実現できてこそ、持続可能な地域の実現」であり、本協定ではそこを目指していくべきではないか？
- 2市の特徴である風力等の再エネポテンシャルを生かし、電力を活用できる仕組みづくりを進めながら、データセンター等の企業誘致に繋げていくことで、地域内経済を促進させる「好循環」を作っていくことが肝要ではないか？



例えば・・・

生じる地域課題

住民の満足度・幸福度低下
既存コミュニティの崩壊
提供サービスの低下
事業の縮小
教育施設・医療施設等の不足
過度な宅地開発（農地・自然の減少）
交通量中（渋滞等の発生）
公共施設の不足
住宅の不足
雇用の拡大
移住・定住者の拡大
地域内の悪循環
水利用の増大（水不足）
既存産業の雇用の流出

民間ノウハウを活用しながら解決

スタートアップ・ベンチャー育成

2市の政策としての選択肢

地域課題解決型委託事業の実施

対策実施

スタートアップ、ベンチャーが課題解決型のビジネスを実施

政策実行

合併した政策としても実行可能

成果連動型委託で課題解決型事業を実施（PFS/SIBで解決）

対策実施

【今後の展開】

の視点から今後3者で研究を重ね、具体的な取組について検討を行う